

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

「強健、厳正、勤勉」の学び舎の下に眠る遺跡

— 本郷学園校内の発掘調査 —



染井遺跡 本郷学園校内での発掘調査の様子。調査では藤堂家染井屋敷に関連する遺構・遺物が発見された

5月後半に発掘調査を実施した本郷学園は、大正期に創設され90年近くの歴史をもつ学校である。校地が所在する場所は、江戸時代には津藩藤堂家が下屋敷（「染井屋敷」と称す）を構えていた。明治維新後は、三菱財閥岩崎家の所有地へと転じ、旧高松藩の松平伯爵家染井別邸へと変遷を重ねる。そして大正10年、染井別邸内の一面に、旧制本郷中学校（現本郷学園）が設立される事となる。

染井遺跡で発掘調査をしていると、付近の住民

の方からは、江戸時代以降のこの辺り一帯は「松平さんの屋敷」であったというお話を聞く事が多いが、「藤堂」の名はなかなか出てこない。恐らくは、染井地域における松平伯爵家の貢献や、染井別邸が明治～昭和前期に広大な敷地を有していた事実、または六義園が江戸後期の絵図に「松平時之助（柳沢家）」下屋敷であったことが要因であると推測する。

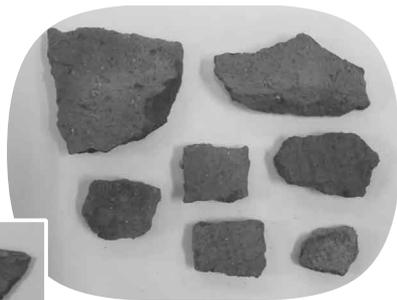
このような歴史的変遷を経て、開発の波に飲まれずにきた校内の地下には遺跡が残されている事

は必然であったのだ。

発掘調査では、藤堂家染井屋敷段階の屋敷地内を画す生垣や、底面に杭穴が残る長方形竪穴状遺構、植栽痕等が発見されている。建物跡は確認されておらず、上記のような遺構の発見からは、この場所が庭空間の一面を占めていたと考えられる。

これより古い時代のもものでは、縄文土器や石器が散見されていることから、この時代の遺跡が展開していた可能性がある。また、^{おと}陥し穴と想定される遺構が確認され、縄文時代のある時期では当地周辺が狩場であったのかもしれない。

出土した縄文土器→



← 出土した石器

出土した遺物には、肥前産や京・信楽産等の江戸時代の飲食器・調理具・燈火具類が多くみられる。出土遺物の年代はおよそ18世紀中葉～後葉にまとまりをみせる。中には、染井屋敷ならではの一点が出土している。藤堂家^{くにもと}国許（地元）の焼

物である伊賀焼で、体部に把手のような“耳”がついた水指の破片である。俗に「伊賀に耳あり」という言葉が表すような伊賀の製品と言える。

伊賀焼の耳付水指
藤堂家国許の焼物



さて、（地域の）歴史を学ぶ上では、発掘調査で発見された資料を直に見て、肌で感じることは大切であると考えます。その意味で、本郷学園生徒に向けた遺跡見学会を実施出来なかったことは悔やまれる。それでも、調査地に訪れた部長をはじめ本校の歴史研究部員の熱意には大変感銘を受けた。また、社会科の先生方には色々サポートや御教示をいただいた。非常に有意義な調査であったと言える。また、校内で歩いていると、見ず知らずの私たちに「こんにちは!」、なんとも心地よい。はたして私は、彼らと同じ年の頃に同じことができたであろう



見学する本郷学園 歴史研究部

か…。そんな、礼儀正しく、はつらつとした姿勢の生徒に囲まれ(?)ながらの発掘調査は、記憶に残るものにもなった。

(高木翼郎)

竹本焼ゆかりの地を訪ねてきました

去る4月23日（土）、先号でご案内いたしました見学会“竹本焼ゆかりの地を巡る”に行ってきました。当日は雨模様、東日本大震災の影響で東京メトロは節電モードでしたが、楽しんで街を歩くことができました。まず、展示替えしたばかりの雑司が谷駅構内遺跡解説板をお披露目。出土遺物の説明の後、地上へGO! 竹本焼にちなんだ説明だけでなく、雑司が谷地域の地形なども確認しながら、^{がんすいえん}含翠園（創業の地）故地へ。神田川の斜面地を占拠するその範囲は広く、規模を実感。「この辺が窯があったあたりですかねえ」と話していると、

ちょうど更地になっている箇所がありました。すかさず地表面を観察していると、参加者：「これって…」。
Ⓜ調査員：「窯道具ですう〜!!!」。遺物発見。しばし盛り上がりました。含翠園故地を後にして、竹本園（終焉の地）故地へ。最後は、雑司が谷案内処前で記念撮影して解散となりました。

今後、楽しんでいただける街・史跡歩きを企画したいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。
Ⓜ

コース：雑司が谷駅構内遺跡解説板⇒
＜目白通り＞⇒含翠園故地（日無坂・富士見坂付近）⇒
＜雑司が谷二丁目商店街／旧弦巻川＞⇒竹本園故地（雑司が谷遺跡東京地下鉄副都心線雑司が谷駅地区Ⅰ区・Q区）⇒雑司が谷案内処

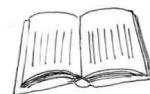


含翠園故地内で発見した窯道具

←日無坂付近
含翠園故地の東縁にあたる

発掘調査報告書の新刊紹介

このたび当会から、染井遺跡、巢鴨遺跡、駒込一丁目遺跡、雑司が谷遺跡の発掘調査の報告書が合わせて6冊刊行されました。いずれの報告書も最新の研究成果を盛り込んだ内容となっております。



〈豊島区教育委員会発行〉

『染井XIX』 豊島区埋蔵文化財調査報告 32 染井遺跡（ルソール駒込地区・駒込2-5-4地区）



本郷通りに面するルソール駒込地区は、瀬戸物屋の店舗と考えられます。調査の結果、幕末～近代にかけての大量の陶磁器が出土しました。中でも植木鉢が多く、染井・伝中植木屋との関係を物語るものと言えるでしょう。特筆すべき

点として、陶器の赤津ハンド（瀬戸・美濃産半胴甕）を模した、軟質陶器の植木鉢が出土しています。1点のみ完形品が出土していることから、植木鉢製作者が植木屋の要望



半胴甕に模した軟質陶器の植木鉢

に応じて1点のみ作った試作品なのかもしれません。

駒込2-5-4地区は、絵図の検討から植木屋今井金兵衛の敷地の一部と考えられます。発掘調査では近世末から近代にかけての水琴窟や植栽痕、溝などが検出されました。一般的に水琴窟が検出されるのは武士や富裕な人の屋敷が多いことから、この今井金兵衛家も経済的に力をもつ人物であったと考えられます。

（山田琴子）



水琴窟の検出状況

〈豊島区教育委員会発行〉

『巣鴨町XIV』 豊島区埋蔵文化財調査報告 34 巣鴨遺跡（清和小学校校庭地区）



本書は、2010年に創立60周年を迎えた豊島区立清和小学校における発掘調査を取りまとめています。現在は緑の芝生となっている校庭の下からは、江戸時代の井戸や縄文時代中期の土器も出土し、太古の昔からここに人々が暮らしていたことが明

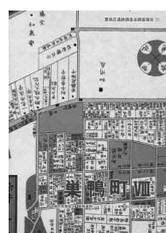
→カラーページの一部

らかなりました。特に小学校南端で江戸橋通りに沿う堀の発見は、本地区の大きな成果のひとつです。考察では、これまで議論された堀の果たした役割について再検討を加えています。また、巣鴨遺跡をわかりやすく解説したカラーページもありますので、ぜひご覧ください。

（小川祐司）

〈豊島区遺跡調査会発行〉

『巣鴨町VII』 豊島区遺跡調査会調査報告 20 巣鴨遺跡（ジェイフラッツ巣鴨地区）



ジェイフラッツ巣鴨地区は、巣鴨町上組に位置する、近世から近代の町家です。出土品の中には18世紀から19世紀代の周辺地区ではみられない様な質のよい陶磁器がある一方で、土瓶や瀬戸・美濃産磁器碗類、そして施釉土器の燈火具が大量にみられることから、多数の人間がこの場所で飲食をしていたようです。また日常生活では食す機会が少ないアカガイ、サザエ、カジキ

マグロなどが大量に出土していることから、人々が外食をする場所であったのではないかと考えられます。1861（文久元）年に作成された『巣鴨町のきべつえす軒別絵図』と本調査成果から、本地区は「居酒屋定七」の家作に比定されます。

なお、調査区南側では、溝の覆土から1707（宝永4）年に富士山の噴火に伴う火山灰が検出されており、1737（元文2）年の巣鴨の町が成立する前の土地がどのように使われていたのかを示すものとして注目されます。

（山田琴子）

<豊島区遺跡調査会発行>

『伝中・上富士前VI』豊島区遺跡調査会調査報告 26 駒込一丁目遺跡（パークハウス駒込六義園地区）



駒込一丁目遺跡の展開する豊島区駒込一丁目の周辺は、かつて江戸時代に伝中と呼ばれ、江戸の園芸文化を担った「伝中の植木屋」たちが活躍した舞台でした。また「日光御成道」（現在の本郷通り）は、将軍が日光東照宮へ参拝する際に利用した道ですが、この沿道には上富士前町の

町家が軒を連ねていました。『伝中・上富士前』の書名は、以上の歴史的な背景を表しています。本書の報告地区では、幕末～近代の植栽痕や多量の植木鉢が捨てられた土坑が発見されました。文献史料からは判りませんでしたが、出土した多量の植木鉢類から、どうやら植木屋であったものと思われま。どんな植木屋だったのかは、今後の検討課題となります。（宮川和也）

<豊島区遺跡調査会発行>

『雑司が谷III・IV』豊島区遺跡調査会調査報告 22・23

雑司が谷遺跡（東京地下鉄副都心線雑司が谷駅地区・No. 19・21・22 地区） 5分冊



本書は東京地下鉄副都心線雑司が谷駅の建設にともなって調査された地区の成果を収めたものです。この地域としては異例の調査面積の広さ（約5,400㎡）で、しかも、極端に細長い形をしているため、様々な時代の多様な遺構・遺物を発見することができました。

中世については、長崎一丁目遺跡に次いで、遺構（道の跡・地下式坑）、遺物（板碑・陶器・土器など）



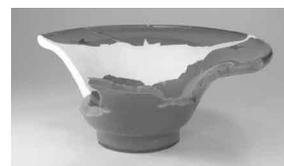
中世まで遡る道の跡

ともに、区内ではまとまった量が見つかりました。

近世については地下室やごみ穴、溝、樹木の痕跡、畑など地域を成り立たせて

いるいろいろな要素が見つかりました。

近代については、美術工芸史上名高い「竹本焼」の窯「竹本園」の製品や生産道具が大量に発掘されました。



竹本焼 口縁が朝顔状に反る青磁釉の鉢

竹本焼 竹本園で使用された釉薬のテストピース



また、お産の後産（胎盤）を建物の入口付近に埋める習俗「胞衣納め」の痕跡なども見つかっています。いずれも、発掘調査でしか知りえない成果で、雑司が谷のイメージをさらに豊かに広げてくれることでしょう。（両角まり）

<としま遺跡調査会発行>

『染井XVII』としま調査会調査報告 5 染井遺跡（ユウティビル分譲住宅地区）



本地区は、本郷通りから西へ分岐する染井通りの北側で台地縁辺部に位置しています。近世から近代にかけては、染井植木屋の伊藤彦右衛門家に比定される屋敷地の一角にあたります。本調査では、生垣や植栽痕・ピットが発見され、検出された2条の生垣に挟まれた空間を道跡と考え、18世紀中葉～幕末における植木屋の屋敷地間を跨ぐ通路の1つであった可能性が指摘されます。（高木翼郎）



検出された2条の生垣と道跡

※報告書の一部には頒布できるものがあります。詳しい頒布方法につきましては、豊島区教育委員会発行分は豊島区行政情報係もしくは文化財係へ、それ以外は当会までお問い合わせ下さい。

考古学講座の受講生を随時受付中

ただいま、2つの考古学講座（豊島区立勤労福祉会館主催の文化カレッジ）が好評開講中です。



↑ 講座の様子
(フィールドワーク編)



講座『中世の城と館を歩いてみよう』の近況報告
八王子市の片倉城址を見学しました。土塁（どろい）や櫓（やぐら）台跡を目の前にしての解説に、受講した方々は熱心に聞き入っていました。

※講座『中世の城と館を歩いてみよう』の受付は締切らせていただきました。多数のご応募ありがとうございました。

講座『考古学から学ぶ 豊島区とその周辺』では、定員にまだ空きがあり、講座の途中参加を随時受け付けております。第3回（7月9日）は、フィールドワークとして、東京都埋蔵文化財センターを見学します。展示見学から普段は立ち入れない博物館の舞台裏が見学できます。第3回の講義後は夏休みを挟み、9月以降は月に一回の講義となります。

→ 講座の様子（座学編）



【講座内容】

豊島区内の発掘調査によって判明してきたことや出土した遺物についての講義（座学）をはじめ、フィールドワーク（博物館見学やまち歩きを予定）を行っております。講座の場でしか、触れる・知ることのできない貴重な資料もご用意いたしております。この機会に是非参加していただいて、そして豊島区の歴史と一緒に学んでみませんか。

お問い合わせ：(財)としま未来文化財団 豊島区立勤労福祉会館

TEL：03 - 3980 - 3131（担当：加瀬）

多くの図書を寄贈いただきました

昨年度（2009年10月～2010年9月）に、多くの機関や団体・個人の方から図書をご寄贈いただきました。以下に記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）

愛川町教育委員会、青森市教育委員会、足利市教育委員会・足利学校アカデミー・史跡足利学校事務所、有田川町教育委員会、伊東市教育委員会、江戸遺跡研究会、江戸東京たてももの園、大八木謙司、お茶の水大学、学習院大学史料館、葛飾区郷土と天文の博物館、加藤建設(株)、門脇洋子、神奈川県教育委員会、神奈川県立歴史博物館、(株)京都科学、(株)シン技術コンサル、鎌倉市教育委員会、川蒸気合同展実行委員会、河内長野市教育委員会、菊川市教育委員会、栗田健史、さいたま市遺跡調査会、財団法人利用運送振興会物流博物館、財団法人たましん地域文化財団、相模原市教育委員会、下関市立考古博物館、白岡町遺跡調査会、白峰 旬、新宿区教育委員会、巣鴨百選会、杉並区教育委員会、関口慶久、世田谷区教育委員会、千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会、鶴ヶ島市遺跡調査会、帝京大学山梨文化財研究所、帝都高速度交通営団、十日町市教育委員会、十日町市博物館友の会、東京考古談話会、東京地下鉄株式会社、豊島区教育委員会、豊島区立郷土資料館、豊田市教育委員会、豊田市郷土資料館、同成社、土佐山田町教育委員会、日本鬼師の会、橋口定志、張替清司、日野市落川遺跡調査会、広島市教育文化振興事業団、物流博物館、文京区上富士前町遺跡調査団、文京区教育委員会、瑞浪市陶磁器博物館、水戸市教育委員会、三芳町教育委員会、山口 廣、米沢市教育委員会



巢鴨遺跡 (豊島区 No.6 遺跡) 原始・古代編 ～ 石器と獲物と巢鴨の谷 ～

巢鴨は豊島区内で最も多くの発掘調査がなされており、町人地や武家地といった江戸時代の遺跡の印象が強い地域です。しかし、旧石器・縄文時代の遺構・遺物も発見されており、徐々に原始の巢鴨の様子が明らかになってきました。

“巢鴨にも旧石器時代の遺跡がある”とわかったのは、巢鴨四丁目の関東ローム層（いわゆる赤土）から、黒曜石製のナイフ形石器が出土したことによります。また、縄文時代草創期から早期（1万2千～6千年前）の陥し穴や、縄文時代後期の土器（堀之内I式）のほか、黒曜石製の矢じりなどが都立大塚ろう学校の建て替えによる発掘調査で相次いで見つかりました。



出土した黒曜石のナイフ形石器

こうした石器の中でも、ガラス質で切れ味のよい黒曜石は多く用いられた石材です。しかしこの石は近くで採れるものではなく、少なくとも長野や箱根まで行かなければなりません。現在なら日帰りで行ける場所ですが、当時は何日も費やした危険な旅であったことでしょう。こうした石材は自ら採取に行くか、交易によって何かと引き換えに手に入れたと考えられます。



縄文時代の陥し穴

発見された地点は少ないですが、この場所を地図上に記していくと、現在は埋もれてしまっている谷の周囲に集中することがわかります。巢鴨は南北に谷田川と谷端川に挟まれており、ここから枝状にいくつもの谷が延びていました。残念ながら巢鴨では住居址は発見されていませんが、これらの成果から巢鴨地域は当時、狩り場であったと考えられます。谷の近くに陥し穴を掘り、槍や弓で獲物をそこへと追い込んで捕らえていたのでしょう。（小川祐司）

【編集後記】

- 当会は節電に取り組んでいます。しかし、大事な文化財を扱う仕事なので、温度や湿度調節は重要です。節電も仕事も効率よくやっていきたいものです。
- 今号で紹介した本郷学園校内の発掘調査では、休憩中にサッカー部やラグビー部の練習を眺めるのが日課になっていました。部活動は青春ですね。
- 編集者名の「翼」が、なんて読むのかわからないとの指摘をいただきました。「よく」です。某人気サッカー漫画の主人公とは違います。 [元サッカー部:翼]

「つたのは通信」の由来：蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。



⑦のように髪が長い人は夏大変そう。同じように夏の発掘調査でもかぶるヘルメットもなかなか暑い（涙）

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス: <http://www.toshima-iseki.org/>

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：千葉弘美